

令和3年度第1回学校運営協議会議事録

- 1 日時 令和3年5月7日（金） 15：15～16：20
- 2 場所 本校リスニング室
- 3 出席者 委員13名
大学教授等 接続する学校の職員 自治会代表 PTA代表
行政関係者 校長 副校長 事務長 経営企画課主任
総務課主任 教務課主任 進路指導課主任

4 内容

- (1) 辞令交付
- (2) 学校長挨拶

【校長】

- ・4月から校長を務めている。三高では平成27・28年に副校長として勤務、4年ぶりに戻ってきた。
- ・昨年度までは学校評議員という制度であった。この学校運営協議会はさらに学校と地域が一体となって学校づくりを進めるものである。小学校・中学校で導入が進んでおり、県立学校では昨年度1校、今年度は7校が導入する見込みであるが、数年のうちですべての県立学校で導入されることになると思う。
- ・生徒によってより良い教育をと思うあまり、学校が方向性を欠いてしまったり、働き方改革の面からも職員が疲弊してしまったりといったこともあるかもしれない。遠慮なさらずにぜひ建設的な意見を。任期は1年となっている。

(3) 説明 学校運営協議会

p. 2～5) リーフレット「コミュニティスクール」のあらまし
コミュニティスクールとは学校運営協議会を設置した学校を指し、学校運営協議会は、法律に基づき学校運営に関することについて広い関係者で協議し、学校運営に保護者や地域住民の声を積極的に生かし、学校と地域が一体となって特色ある学校づくりを進める体制のこと。以下リーフレットの説明。

p. 6) 参考資料地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5

「対象校の校長は、当該対象学校の運営に関して教育課程の教員その他教育委員会規則で定める事項について基本的な方針を作成し、当該対象学校の学校運営協議会の承認を得なければならない。」とあることから、本日は学校経営計画の協議及び承認となる。

p. 7) 岩手県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則

- ・任期は1年、再任されることができる。
- ・職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。
- ・半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- ・毎年度1回以上対象学校の運営状況について評価を行うものとする。

p. 8、9) 岩手県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の運用について

- ・議事録を作成する。
- ・議事内容が個人のプライバシーに関する情報などの場合は非公開とする。

・対象学校の運営及び当該運営への必要な支援に関する協議の結果については、学校のホームページ等で公開するものとする。

(4) 会長・副会長選出

(5) 協議 学校経営計画 (以下会長が進行)

【校長】

ア 現状把握及び将来展望

(ア) 学校に対するニーズ

高校再編計画前期で、本校は7学級から6学級に学級減になる予定であったが、見送りとなった。今年度から始まる学校再編計画後期では7学級維持となっている。県内の中心校として期待されており、またその役割を持っている学校とすることができる。

(イ) パートナーとの関係

主体的・対話的で深い学びの実践はこれからも継続していきたい。

(ウ) 学校に影響を与える変化

岩手進学ネットワーク事業探究プログラム実施対象校 昨年度から8校が指定
いわての学びの改革研究事業研究協力校 本校・花北・水沢の3校が指定

イ 校訓・教育目標

育てたい生徒像ー自主・創造・友愛ーは平成22年度に当時の職員で話し合っ
て決めたものであり目指すところとしてはゆるがないものとして、掲げていき
たい。

ウ 目指す学校像

(ア) 今年度の重点目標は、達成指標であり、1年間経過した際に判断に使う定量的
基準。

(イ) 取組方針は、具体的にな取り組みをまとめたもの。

エ 今年度の重点目標

(ア) 「授業で勝負する」学習指導の充実

本校では生徒の教員に対する授業評価を4点満点で授業ごとに行っている。参
加型授業通信を昨年までは基本的に管理職が作成していた。今年度は新たな取
り組みとして授業を参観した教員全員が作ってお互いに高め合うものとした
と考えている。

(イ) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

生徒指導的な観点の項目。不登校出現率の1.25%は県立高校の平均。県内の
平均を下回ってほしいと思っている。

(ア)～(ウ)は新たに設定した指標、(エ)(オ)は昨年と同様。

令和2年度岩手県立盛岡第三高等学校学校評価報告書は県に提出したそのもの
である。

【委員】 学校再編計画の中で学級減見送りの理由は何なのか。

【校長】 中学校の卒業生の数が減っていく割には本校の志望する生徒が減らない
ことがある。また、この学校を卒業し県を支えていく人材が多いので、そういった生徒を

育成するといった意味合いもあると思われる。

【委員】岩手学びの改革研究事業研究協力校の3校のうちの1校であるということだが、取り組みは具体的にどういった内容か。ICTの具体的な活用の仕方は。

【校長】本校では現在ホームルームにプロジェクタが設置されている。画面が電子黒板となっており、黒板で操作できる。例えば数学の教員はグラフも描くことができる。全校生徒分のタブレットはまだないが、複数クラスが授業できる分はある。生徒の考えをタブレットから教員のメインパソコンに送信して、それをプロジェクタで投影して授業を進めるといったこともできる。

【委員】効果的に進んでいるのか。

【校長】本日の岩手日報でも県立校ICT化促進の記事が載っていた。予算が関係してくるが、最終的にはすべての学校に入ることになると思われる。本校では、昔のようにプロジェクタの台数が足りず使いたい教員がかち合うといったことはない。今後、活用技術を向上させ教員間のスキルの差を埋めたいと考えている。効果的な使い方の情報交換をするために、通信を作成しお互い学び合う取り組みを行う予定である。

【委員】昨年度並みの目標とは思いますが、重点目標A授業評価の指標をなぜ3.5にしたのかを確認したい。また重点目標のいじめ関係の指標を75%に下げた理由は何か。

【校長】授業評価については昨年3.5でおととしは3.6であったことから。昨年以下がったのは集計の仕方をペーパーからデジタルに変えたことも関係しているかもしれない。いじめ関係については昨年83%なので十分達成している。ただ、「入学後友人関係がよくなった」という設問であれば、もともと入学前から友人関係がよい場合は含まれないため75%とした。

【委員】確かにスマホでアンケートとなると入力者の感覚が変わってくるかもしれない。

【委員】地域住民の概念、その範囲は三高がある高松四丁目か黒石野か盛岡全域か。

【校長】周辺の方々が地域の学校と強く認識しているとは思いますが、離れた地域でも自分の子供やまわりの子供通っていれば自分に関連した学校だと思ってきている。決まった範囲というよりはグラデーションになっていると考えている。

【委員】三高は魅力のある学校で、心から希望して入ってくる生徒が多いと思うが、不登校は実際何%くらいいるのか。

【副校長】昨年度は全校生徒861人中11名で1.28%。

【校長】補足であるが、本校生は比較的自分の体調や心の状態を客観的に見ることができているのではないか、これはすごく教員の関わりが影響しやすいということ。無理やり引っ張ろうというのではなく、生徒に教員が寄り添うことで展望もひらけることもありそうだと感じている。

【委員】学校がどう関わっていくか、ぜひ手をかけてあげてほしい。参加型授業で主体的対話的な学びを目指す指導を教員全体に広めていこうという取り組みは良い。小学校での学びの蓄積が、卒業後講義型の授業に変換されていくことが多い中で、高校として同様の指導をしているのはうれしい。受験との兼ね合いもあると思うが頑張ってもらいたい。

【委員】この取り組みは全国的に注目されていて、視察も多い。だんだんと県内にも

派生していつているのでは。

【委員】 大学もその方向に変わってきている。

【委員】 地域との関わりも考えなくてはならないとなっているが、今年度の取り組みとしては何があるか。

【校長】 恥ずかしながら現時点ではまだ具体的には考えていない。コロナの状況も予断も許さない。コロナの状況と生徒たちがどういった取り組みをしたいか等踏まえ考えていきたい。

【委員】 ぜひ期待している。商店会中心で「高松の池音楽祭」を実施している。三高にも出演を依頼しているが、一回出演してもらっただけでそれ以降は残念ながらない。高校生も忙しいと思うがやはり地元の高校には出演してほしい。そういう機会も作っていきたい。

【委員】 学校運営協議会として学校経営計画を承認ということでいかがか。

【委員】 異議なし。

(6) 意見交換

【委員】

- ・三高は魅力ある学校、ぜひ入りたい学校、これからもよろしくお願ひしたい。
- ・学校運営協議会としてどんな支援をしていったらいいか、どうやって学校に関わっていけばいいのかが見えていない。時間をかけて考えていきたい。

(7) その他

第2回は8月26日(木)、第3回は2月22日(火)に開催する予定であることを確認した。